

データが語る “いま”

本川 裕



第②回

結局、幸せなのは 男？女？

男女共同参画社会が目指されているなかで、男性中心といわざるを得ない日本社会の体質が、働き方、子育て、政治参加などで指摘されることが多い。

今回は、しばしば取り上げられる男女格差に関する指標ではなく、少し視角を変えて、こうした男女不平等があるなかで、結局のところ幸せに暮らしているのは男なのか女なのかを調べた国際意識調査の結果を見てみよう。

世界 22 カ国の成人男女にこの点を聞いた結果によると、「男」と答えた人の比率から「女」と答えた人の比率を引いた値が最も高いのは、フランスであり、その差は、61% ポイントにも達している（図表 1）。

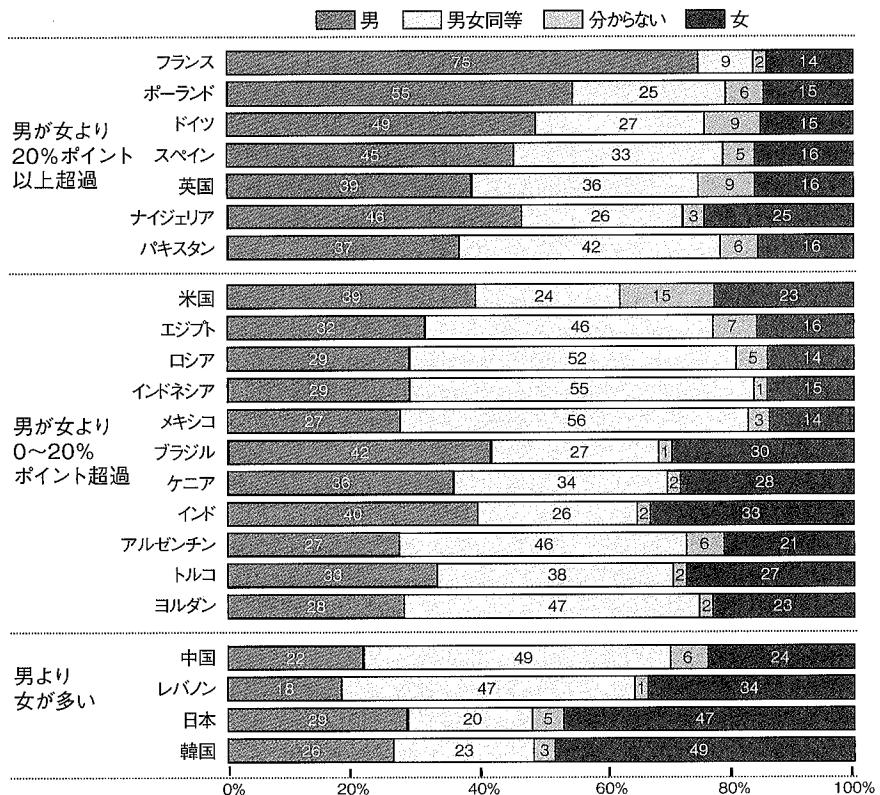
逆に、日本と韓国は、この値が逆転、すなわち女性のほうが男性より幸せに暮らしていると考えられている点で世界の中でも目立っている。

男女の不平等度とこの幸せ格差とはどのような関係にあるのかを理解するために、X 軸に、代表的な男女格差指標である国連開発計画（UNDP）のジェンダー不平等指数（リプロダクティブ・ヘルス、エンパワーメント、労働市場といった 3 つの次元における女性の不利を映し出す指標。日本は 21 位と低い）をとり、Y 軸に上に掲げた意識上の幸せ格差をとった相関図を示した。

結果は、不思議なことに、相関度は低いが、男が有利な状況におかれてい

図表 1 結局のところ幸せに暮らしているのは男か女か（国際比較）

すべてを考え合わせると、男女のいずれが、より良い生活（Better Life）を送っていますか？



（注）国順は男とする回答率と女とする回答率の差の大きい順に並べた。

（資料）Pew Global Attitudes Project, "2010 Gender Report"（2010年7月1日）

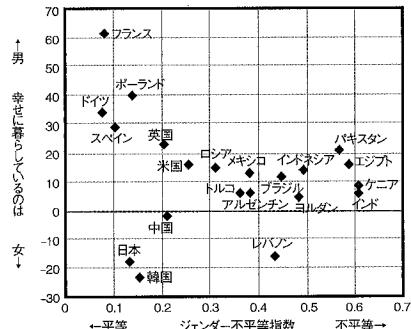
る国民ほど幸せ度の男優位は小さいというパターンが認められる（図表 2）。

思い切って見方を変え、因果関係の方向を逆にすると、何らかの理由でそもそも男が不幸せな国ほどジェンダー不平等は看過されがちだという結論が得られないこともない。

少し危険なこうした見方は思考訓練に止めることにして、日本、韓国という儒教の影響が強かった国で、同じように、先進国の中で幸せ度の女性優位が目立っているのはどうしてだろうか。

私は、核家族化が進み女性は「家」の束縛からかなり解放されたのに、男性がまだ「家」を支えなければならな

図表 2 男女の不平等度と幸福度の相関



（資料）Pew Global Attitudes Project, "2010 Gender Report"
(2010年7月1日) UNDP, 人間開発報告書2013

いという強迫観念に囚われているからだと考えている。日本では、男が精神的に解放され幸せを感じられるようになれば、男女共同参画社会にもっと早く近づくのではないだろうか。



ほんかわ・ゆたか

東京大学農学部農業経済学科出身。(財)国民経済研究協会常務理事を経て、アルファ社会科学(株)主席研究員。現在、幅広い分野の統計データをグラフ化して公開する「社会実情データ図録」サイトを主宰しながら、地域調査等に従事。著作は『統計データはおもしろい!』、『統計データはためになる!』(技術評論社)など。